

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Values include 0177400322, 医療法人アンリー・デュナン会, グループホーム忘れな草, 深川市4条12番7号, 令和2年8月25日, 令和2年9月28日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL: https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0177400322-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和2年9月11日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年7月よりらく株式会社 食材提供を導入し、利用しています。献立は管理栄養士が監修しており、肉・野菜・魚等の栄養バランスが摂れる献立を提供しています。また、入居者様の誕生日にはお寿司等、好みに合わせて行事食を提供しています。誕生日プレゼントは少ない予算の中ではありますが、一人ひとりの好みそうな物を職員が選び、贈っています。フロア内には季節ごとの飾り付けや行事の写真を掲示し、入居者様や家族の方に楽しんでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内中心部にあり、市役所や郵便局、住宅等が立ち並び幹線道路に面し、最寄りのJR深川駅からも徒歩圏内でバス停も間近、また向いにはスーパーもあり、生活の利便性に優れた環境下に立地している。建物は元病院の3階建を全面的に改築して活用し、随所に工夫を凝らし環境整備に努めている。当事業所は各階に1ユニットが入り計3ユニットで長らく運営していたが、職員の不足から今春に2ユニットに縮小した経緯がある。また同一敷地内にはケアハウス、認知症デイ、居宅事業所と保育所があり、各種行事等を連携して行っており、当事業所の強みのひとつとなっている。母体は医療法人で市内に複数の病院とグループホームや老人保健施設等を運営し、広く医療介護で地域貢献をしてきている。当事業所の優秀な点は、利用者の生活について毎月家族宛に個人別のお便りを発行している点である。その内容は、ほぼA4判全面に介護員の名前で個人別に事細かに生活の様子が記され、写真も添えてその家族に毎月送られている。ここで特筆すべきは、お便りの詳細な内容であり、些細な事態も見逃さない注意力、観察力が確実に育まれている事に注目したい。介護について振り返りながら着実に歩を進めているグループホーム「忘れな草」に今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議にて職員が理念を復唱、スタッフコーナーに掲示し、日々の介護に生かせるようにしている。理念を理解して実践出来たかどうかを振り返り、反省したこと等共有している。	理念は簡素に5項目にまとめられて掲示されており、会議の席上で唱和しながら、実践に活かせるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に散歩に出掛けた際は地域の方に挨拶をするように心掛けている。また、年2回の交流会には町内会の方を招待している。託児所の子供たちとの交流等も行っている。令和2年は新型コロナウイルスの流行に伴う感染予防の為、実施出来ていない。	開設より14年が経過し、道行く人や町内の住民との交流は密接になっており、挨拶から時候の話等が日常化している。年に一度の合同のお祭りも盛況で、利用者や地域住民、家族の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人のふれあい新聞に「希望の明日へ認知症に挑む」というタイトルで、事業所の利用者の実践や事例等を毎月掲載し、地域に発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施しており、会議では事業所の活動状況等を報告している。会議での内容は会議録にし、職員への周知と出席者への配布、家族へ送付している。職員会議ではスタッフに意見を求め、運営推進会議にて提案出来ている。また、会議録等の掲示コーナーを玄関付近に設置し、来訪者にも広く情報公開するよう動いている。会議でいただいた意見は当ホームのサービス向上に生かしている。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、3月・5月は中止、7月より再開している。	行政や地域、家族等の参加を得て、2ヶ月毎に定期開催している。議事内容も行事から利用者の推移、事故報告まで及んでおり、議事録も事業所内に掲示し、かつ関係先から利用者家族宅まで配布され、サービス向上に直結した推進会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が出席している地域ケア会議では、市職員と事例の検討や情報交換を行っている。認知症ケア研究会では、地域の認知症の理解を広める活動を行っている。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、4月・5月の地域ケア会議は中止、7月より再開している。	行政とは、制度の改正点や運用での疑似解釈について気楽に問い合わせられる関係で、情報交換も随時行われ、また毎月の地域ケア会議での行政からの報告もあり、互いに信頼できる関係となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を受講し、勉強会で全職員に周知し、日々のケアに生かせるようにしている。基本的に身体拘束をしないケアの実践を掲げ、実施している。毎月各階の委員が話し合いを持ち、毎月の会議に事例や参考資料を提供し、実践に生かせるようにしている。令和2年は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、外部研修が中止になっているが、勉強会委員が中心となって内容を決め、毎月勉強会を行っている。	身体拘束適正化委員会を立ち上げ、毎月委員会を開催している。内容的には不適正ケアの事例検討や拘束の予防方法、センサーやベットの検診を行いながら、また毎月のスタッフ会議で検討事項を職員に徹底し、抑制も拘束も無縁なケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユマニチュードの研修に参加し、勉強会での報告で職員に周知し、日々のケアに生かせるようにしている。基本的に身体拘束をしないケアの実践を掲げ、実施している。毎月各ユニットの委員が話し合いを持ち、毎月の会議に参考資料と事例を提供し、実践に生かせるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が研修に参加し、その資料と内容を他の職員が確認出来るようにしており、活用の機会に備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、本人と家族が納得されたうえで契約していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの要望や意見を気軽に話していただける関係作りを心掛けている。また、玄関の入口に苦情・相談箱を設けている。家族の意見を取り入れる為、行事と遭遇に関するアンケート調査を実施し、結果を運営に反映出来るよう努めている。	毎月、利用者ひとり一人の生活の様子をお便りとして各利用者宅に送付している。また要望や苦情について玄関に意見・苦情箱を設置し、来訪時の聴取、アンケート調査の実施等々で回収し、問題点について検討しサービス向上に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より、管理者への意見・提案を自然に話せる雰囲気になっている。また、朝の申し送りや全体会議・勉強会でも意見や提案を聞く機会を設けている。	何でも何時でも話が出来る職場になるように、日頃から風通しの良い関係を築いており、提案があれば介護現場等で検討し、よりよいサービスになるよう努めている。また必要により個人面談も実施し、意見や困りごと等も受け入れ、職員と一体となった職場作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の資格取得への努力や実績、勤務状況を把握し職場環境・条件の整備に努め、向上心を持って働く事が出来るようになりつつある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進め	職員個々のスキルアップを図る為、内部・外部研修の案内に対しては、積極的な啓蒙に取り組んでいる。受講後は伝達を兼ねての勉強会等でその内容を報告し、その全てを職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内外グループホーム協議会の研修会、同業者と交流者主催の講演会に出席、地域の同業者と交流する機会も多く、情報交換や知識の研鑽を事業所のサービスの質の向上につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族と面談を行い、それぞれの心境・不安や悩みを聞き入れ、初期に少しでも信頼関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の相談は何でも聞き、少しでも気持ちが落ち着けるよう努めている。また、そのうえで施設側の意向も理解していただけるよう説明し、話し合う機会を出来る限り設けて情報交換を行い、信頼・理解を得られるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後早めにケアプランを作成し、モニタリングを行ない、本人に必要なサービス・支援を見つけ出し、対応出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の関わりの中で、一緒にテレビを見たり、昔の話を聞いたり、本人の体調に合わせて食事の準備や食器拭き等を共にすることで、利用者から学ぶことも多く、共に支え合う関係が築かれている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に安心していただくことはもちろん、家族も支援される側ではなく、職員と一緒に本人を支えていくことが出来るよう情報交換・提供をしている。また、面会時等でも近況を報告し、家族と共に話が出来る関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場の関係が途切れないよう、面会、外出、外泊、家族交流会等をして入居者の支援に努めている。年2回春・秋と家族交流会を実施している。令和2年度は新型コロナウイルス流行の為、面会制限があり出来ていない。交流会も中止となっている。	これまでの人間関係や、馴染みの場所との関係が継続できる様に支援しており、友人・知人の訪問もある。また自分の好きな風景へも同行し、馴染みの人や場所と疎遠にならないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、入居者同士でお話したり、職員が話し掛けたり、入居者同士が居室に遊びに行ったりしている。出来ないことを支え合えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院等に転院されても、本人の様子を見に行くこともある。家族がホームに来られた時には相談等の対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望・意向を聴き、自分で意思疎通が出来ない方は、家族の方あるいは職員が話し合い検討している。介護計画を3ヶ月に1回作成し、毎月モニタリングも実施している。	生活を支える中で、希望や思いを理解して本人の意向に沿えるように努めている。意思疎通が苦手や困難な場合でも、仕草や表情から、また本人の職歴や生活史から、本人本位の生活になるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を作成し、概ね半年ごと、変化のあるごとに見直しをしている。使い方を活かし、参考にしながら、馴染みで暮らしていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者が出来ることをしていただき、介護記録に記入し、毎日の状態の見守りや声掛けをし、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎にアセスメントを行うとともに、入居者の日々の生活場面から得た意向や、家族の要望、職員からの情報を考慮しながら作成している。モニタリングは1ヶ月毎にカンファレンスを行い、職員全員参加での話し合いを行い、チェック・見直しを実施している。	職員がモニタリングを含め課題や介護の実際について提案を行ない、カンファレンスで討議し、担当者会議で確認しながら介護計画を3ヶ月毎に作成している。病変等が生じた場合は、現状に即して検討し、実情にあった介護計画になるよう努めている。	介護計画の具体的事項である短期目標について、目標への実践過程を毎日記録に残し、達成へ向けた進捗度が、誰でも何時でも書面で把握できるよう補助台帳等の活用など、様式・方法等を検討するように期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果、気付いたことは個別記録に記入し、カンファレンスやケアプランを立てる時等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じて柔軟な支援を行っている。医療機関への通院、自宅等の外出支援、地域の人々との交流を図る等、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵手紙、リフレクソロジー等、ボランティアの受け入れをしている。移動図書館の利用もしており、入居者が楽しむことが出来る環境づくりを心掛けている。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、ボランティアの受け入れは休止している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、かかりつけの医師への受診支援を行っている。提携病院医師の週1回巡回による支援も受けている。週に一度看護師による健康管理の支援をしている。	原則としては受診は家族対応だが、現状ではほとんどが職員がかかりつけ医への受診支援をしている。毎週1回、協力医による往診や看護職員の健康チェックが行われ、健康状態は関係者と共有し安心できる医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師による健康管理を行い、医療の連携と家族への報告を適切に行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書を作り、入院した際に渡している。入院までの経過、病歴、内服薬、緊急連絡先等を詳しく記載している。また、他の入居者の病院受診した時に、見舞いに行つて様子をうかがっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい	重度化や終末期に向けた支援は、契約時の段階から事業所の方針や出来得ることを本人と家族に説明している。早い段階から家族の意向を聞き、話し合い、方針を共有している。	重度化や終末期に於ける対応は、契約時に文書で説明し同意を得ており、基本的には看取りは取り組んでいない。重篤となった場合は、医療機関へお願いしているが、本人や家族の希望によりできる範囲で寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に入居者に対しての目配りに気を配り、職員全員が応急手当の講習を定期的に行い、事故発生時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(火災・自然災害)は消防署立ち会いのもと(火災のみ)実施している。避難の内容と結果は文書として残し、職員会議等で周知している。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、消防署の立ち合いは無しで実施。8月には水害を想定した訓練を実施予定。	年に2回、消防署の指導の下、他の事業所の協力を得ながら避難訓練を実施している。冬季の暖房装置はポータブルのストーブを1台用意し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の基本理念にもなっており、目標を立て実践し、反省を生かすよう努めている。常に入居者一人ひとりの意見と尊厳を大切にし、優しい声掛けや敬意ある対応を心掛けている。	礼儀は介護の基本であることを踏まえ、言葉使いや応接、プライバシーへの尊重等を日頃から気をつけるように徹底し、尊厳の重視に向けて臨んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に日常生活での本人の思いや希望を聞き、自己決定が出来るように声掛けしている。また、本人が選択出来るような働きかけも行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの体調に配慮し、本人の希望を大切にしながら、生活のペースを乱すことなく、個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望にそった美容室の利用や、定期的に身だしなみが整えられるよう、出張美容室も利用している。毎日の支度は入居者の好みを聞き、可能な方は必要に応じて化粧品等購入し、お化粧をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人別に好みに配慮し、要望も取り入れながら、食物の硬さ等工夫している。また、食事の下ごしらえや、おしぼりの準備等を手伝ってもらっている。	今年の7月より配食サービスの実施に踏み切り、今まで以上に栄養価やバラエティーに富んだ食事を提供し、また調理での時間を利用者対応に振り分け、一層のサービス向上に繋げている。また行事食やおやつ類は職員で対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容を把握し、食事量は個人にあわせて調節している。水分量も記録し、必要に応じて補給してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯みがき・うがいをし、就寝前には入れ歯を週3回に洗浄剤につけている。また、全員のマウスケア用品をチェックしている。週に1回ハブラシ・コップ等も消毒し、清潔に使用していただけるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のトイレ時間をチェック表で把握し、トイレの声掛けや、おむつ確認をしたり、就寝時のみパットを使用してもらい、失敗を防いでいる。本人の排泄量に合ったパット等の使用も工夫している。	排泄はトイレで行うことを原則とし、時間での誘導や仕草や動きも把握して、乳酸品や軽い運動も取り入れながら、自然な排泄になるよう支援している。またオムツの是非をいつも問いかけてながら、布パンツへの転換を積極的に進めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無をチェック表で把握し、TVでの体操や散歩等歩行運動をしてもらうようにし、予防に取り組んでいる。便秘の方は下剤の量を調節しながら服用しており、間隔があいた場合は排便にて排便を促している。また、乳酸菌飲料等水分を多く摂取してもらうようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表をもとに、定期的に入浴の声掛けをし、本人の意向を聞きながら入浴してもらっている。また、希望があれば優先している。	入浴日は固定せず、毎日がお風呂の日としてお湯を準備し、誰でも何時でもどうぞ、を可能にしている。お風呂で一番会話が弾むと支援する介護者も入浴を楽しみにしており、ゆっくりと話し合い、笑い合いながら入浴支援を続けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時には温かい飲み物を提供したり、ソファで横になってもらったり、安心して休まれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が病院受診した時には薬の説明書を見て把握するよう心掛けている。服薬は食事後に一人ひとり誤薬の無いようにスタッフ3人体制で名前を確認し、口に入れ確実に服用している。食事後は薬袋の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に洗濯物たたみ、食器拭き等の役割を持ってもらったり、絵手紙に参加してもらえるよう支援している。本人や家族からの情報(生活歴)をもとに嗜好や趣味等の把握をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調に合わせて散歩、市外へのドライブ等の支援をしている。また、買い物や用足し等、家族同行で本人が出掛けられるよう支援している。なじみの場所へ定期的に出掛けている入居者もいる。令和2年、新型コロナウイルス流行の為、外出・外泊、ドライブ等は自粛しているが、本人の体調に合わせて施設周辺の散歩は行っている。状況を見ながら外出等の支援も再開したいと考えている。	外出は年間計画とは設定せず、天候と相談しながら、季節ごとにドライブ等に出掛けている。また日常的にも付近の散歩、敷地内の保育園で園児と遊んだり近所の庭をのぞいたり、体調を考慮しながら閉じこもらない介護に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族とも話し合いながら、管理可能な入居者のみ本人が管理しており、それ以外は事務管理で必要な時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて、いつでも電話や手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子での移動をスムーズに出来るような家具の配置を行っている。台所から食事準備の様子、食器を洗う音が聞こえ生活感が感じられる。居間や食堂には、季節にあった花などを飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用空間の居間兼食堂には水彩画や油絵が掛けられており、観葉植物も随所に配置され、また温度や湿度も適性に管理され、一人ひとりが癒される場所となっている。利用者同士や職員との会話で笑いが生まれ、心地の良い穏やかなれる場所として工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は広く、ゆったりとしており、好きな場所でそれぞれに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の居室は備え付けのベッド等設置されており、家族の写真や使い慣れたものを持ち込んでいただき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には、昔馴染みの家財や小物類がそれぞれの思うままの配置で置かれており、落ち着いた雰囲気を感じられ、自分の部屋としてゆっくりと過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの体調に配慮し、入居者の生活のペースを乱すことなく、押し付けにならないよう、安全で個性のある支援をしている。		